

学校トイレの美化環境 推進運動の実施

藤村 洋二

問 学校トイレに関する

社会的関心は急速に高まりつつあり、学校が子どもたちにとって教育、学習の場と同時に生活の場である認識も深まっています。

配されている。

トイレの美化運動と環境改善を通して、子どもたちに公德心や社会のルールやマナーを身につける教育が待たれる。

公共施設のトイレが改修され、立派になり、公共施設では唯一学校のトイレが遅れている。学校トイレには行けない子どもも多く、健康面をはじめ心身への悪影響が心配されている。

- ① 学校トイレの現状をどう考えているのか
- ② 今後の改修予定
- ③ グランド開放時のトイレの使用
- ④ 学校トイレの美化環境の推進運動の実施

年次的に改修に 努める

教育部長

答 ①②トイレの大半は

和式。年次的に施設の大規模改修や改築時に、洋式トイレ化など利便性の向上に努める。

③ 学校開放時のトイレは基本的にグラウンド付近の屋外トイレを利用。屋外トイレに不備がある場合は整備する。

④ トイレ美化

は、教員と児童生徒が日々清掃活動を行っている。整備にあたっては児童・生徒及び保護者の意見も反映する。



扉がなく、開放感があるトイレ（栗東中で）

観光物産協会の 法人化は



問

観光開発を目指す野洲市の観光振興の地域づくりと観光物産協会法人化後の野洲市行政と観光物産協会の役割分担は。

答 法人化の認可までの事務手続きは行政が支援。法人化後も積極的に支援を検討。

市民の顔が見える 持続可能な観光振興を

中島 一雄

問 これからの観光の大切さは地域の民たちと合意形成の中で市民が主体となり市民が参加するなかで市民自身が誇りを持つて地域の魅力を市の内外に発信し地域文化の創造やコミュニティビジネスへとつながる市民と資源と来訪者の満足度が一致する「持続可能な観光振興」に持っていくことと考える。次の項目について伺いたい。

- ① 野洲市の理念（人権・環境・協働）に融合する観光振興
- ② 体験型観光
- ③ 観光地域づくりの実践計画による募集の考え
- ④ 希望が丘、花緑公園、鮎家の郷等の来訪者の地域への内発的発展への考え

市民参加による 地域の再発見に努める 環境経済部長



答

① 観光振興に必要なことはさまざまな分野で来訪者と交流できる機会を創り、これらの活動は本市の理念である人権と環境を土台に協働によるまちづくりに合致するものと考え商業者などの方と協働で実施し実践により取り組む。

④ 従来の観光資源を生かし、また新たな観光資源を開発し、市民の協力のもと観光物産協会、行政などが施策を分担し、観光振興に努める。

② 新しい分野で魅力あるものと認識している。実現に向け関係機関と協議する。



観光資源がいっぱい（あやめ浜附近）



野洲駅前交番

問 本市では、最近、事務所荒らし等の窃盗犯などの犯罪が発生し、犯罪被害への不安感が増大していることから、新規の交番設置を守山署に要

望していく。

生活安全室では、守山署と連携し、自主防犯組織の育成等に努める。

交番設置を要望する 市民健康福祉部長

問 野洲駅北口付近は、24時間営業の店舗等が増えて深夜徘徊の若者や暴走族が集まり、治安上、不安を感じる場所です。北口付近か、分庁舎付

近に交番の設置が必要と考える。
生活安全室の取り組み状況と、青色回転灯の設置について伺う。

大丈夫か 防犯対策

答 児童生徒数の推移では平成元年と平成16年で、旧両町を合算し、32%の減少です。今後とも福祉・保健・医療・教育・労働

等の担当部所と連携を図りながら、すべての子どもが健やかに育ち、安心して子育てができるよう取り組む。

更なる取組みをはかる 市民健康福祉部長

少子化は大問題

荒川泰宏



わが街を美しく

太田秀司



問 近頃の道路や公園は、緑地帯や植栽が設けられ見栄え良く整備されているが、残念ながら手入れされていない所は少なく余計その汚さが目立つ。

市長が堂々標榜されている「環境と人権を土台にして…」が口先だけにならないよう、新市になった今日、市の威信の為に美化の促進をし、気持ち

ちの良いまちづくりに努めて貰いたい。
とりあえず、美観保持の為に関連予算と今後の取り組みについて伺う。

業者等に委託も、市民にも協力を 都市建設部長

答 道路・公園管理委託料として合せて750万円を認めて頂き、これら樹木の維持管理、草刈り等は業者やシルバー人材センターに委託している。

公園は各自治会に清掃依頼している。今後限られた財源の中で市民の協力も得、美観保持に取り組みたい。

一般質問への市の姿勢は

問 一般質問は市民の切々たる要望である。その取扱いに市はどのように対処しているのか疑問。

市民協働のまちづくりに努める 市長

答 担当部課で課題を整理し事業化の可否を検討して答え、約束したことは時間がかかっても事業を計画的に進める。

又、市民と協働の理念を取り入れ、協働のまちづくりに努めていきたい。



県道木部・野洲線、和田地先緑地帯